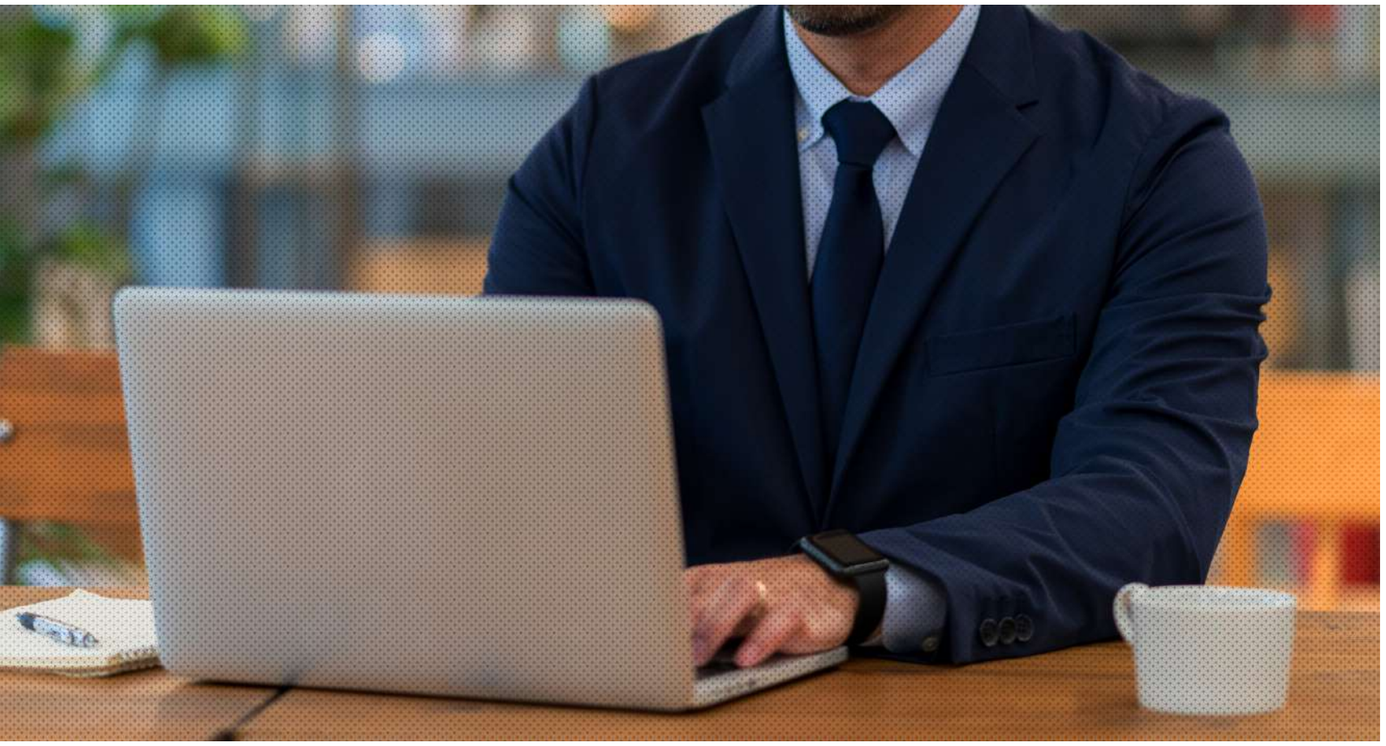
harutaka

WEB面接
完全攻略ガイド

株式会社ZENKIGEN



Contents

01 **WEB面接の導入背景と各社の抱える課題**
Appendix：学生側のオンライン面接への所感

02 **ニーズ別WEB面接ソリューションと最新トレンド**
ニーズ別WEB面接ソリューション導入例
オンライン採用の最新トレンド例

03 **なぜ録画動画による選考が注目されるのか？**
Appendix：録画動画選考の活用のTips

04 **WEB面接の大幅効率化のポイントは？**
Appendix：WEB面接活用のTips

05 **WEB面接導入検討時に起きる4つの課題**

06 **接続トラブルの対応方法は？**
Appendix：WEB面接サービスharutakaのモニタリング機能

07 **WEB面接での見極め方法とは？**
Appendix：WEB面接で見極められるもの。見極められないもの

08 **harutakaとは**
［参考］ライブ通信サービス比較一覧

Copyright © ZENKIGEN Inc.

01

WEB面接の導入背景と各社の抱える課題

Copyright © ZENKIGEN Inc.

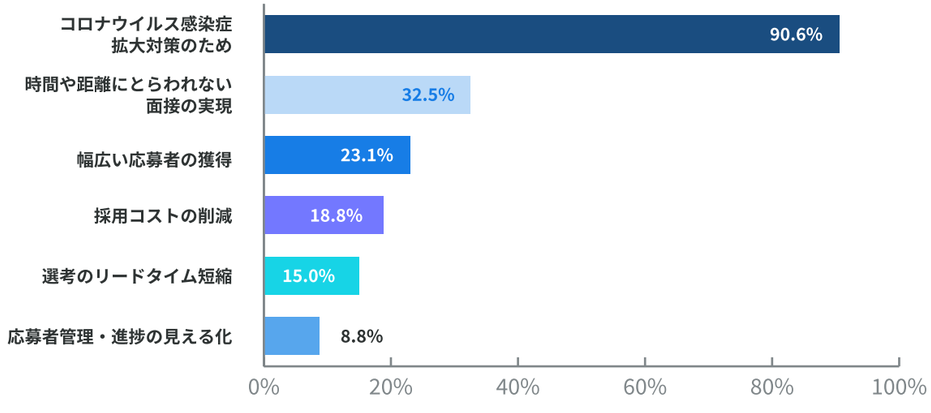
はじめに：WEB面接の導入背景と各社の抱える課題

対面形式が主流であった面接をオンライン上で行うWEB面接が注目を集めています。以前は採用工数の削減や、地方面接のコスト削減を目的として導入する企業が中心でしたが、covid-19の流行により、対面面接からWEB面接に切り替える企業が大幅に増加しました。

WEB面接の導入は時間や場所の制約から効率化をもたらしましたが、応募者の見極めや、コミュニケーション方法の難化、接続トラブルなど課題を抱える企業も多いです。また、一部の工程のみWEB面接を取り入れる企業や、全工程をフルオンライン化する企業など、各社で最適な方法を模索している状況にあります。

本資料は、採用担当者様のために改めてWEB面接の知見や最新トレンドを網羅し、その企業にとって最適なオンライン採用を実現する一助となるため作成いたしました。

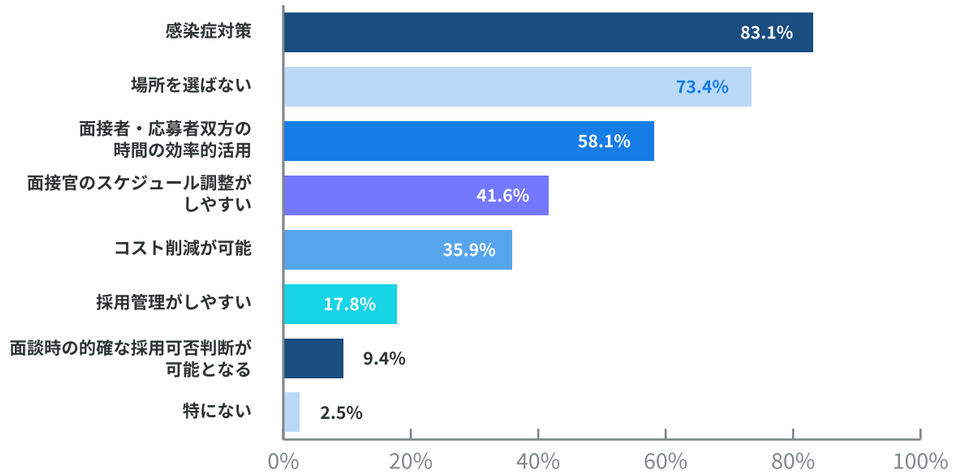
Q オンライン採用を実施しているという方にお聞きします。
オンライン採用の導入理由をお聞かせください。(MA)　N=320



オンライン採用のメリット

オンライン採用のメリットは、「感染症対策」が83.1%と最も多く、次いで「場所を選ばない」が73.4%であった。

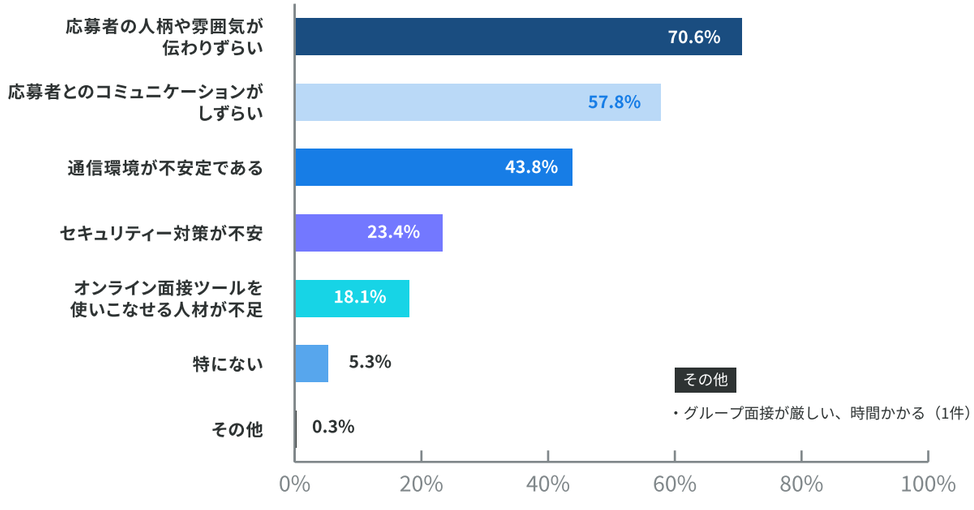
Q オンライン採用を実施しているという方にお聞きします。
オンライン採用のメリットとして当てはまるものをお聞かせください。(MA)　N=320



オンライン採用の課題

オンライン採用の課題は、「応募者の人柄や雰囲気が伝わりずらい」が70.6%と最も多く、次いで「応募者とのコミュニケーションがしずらい」が57.8%であった。

Q オンライン採用を実施しているという方にお聞きします。
オンライン採用の課題について当てはまるものをお聞かせください。(MA)　N=320



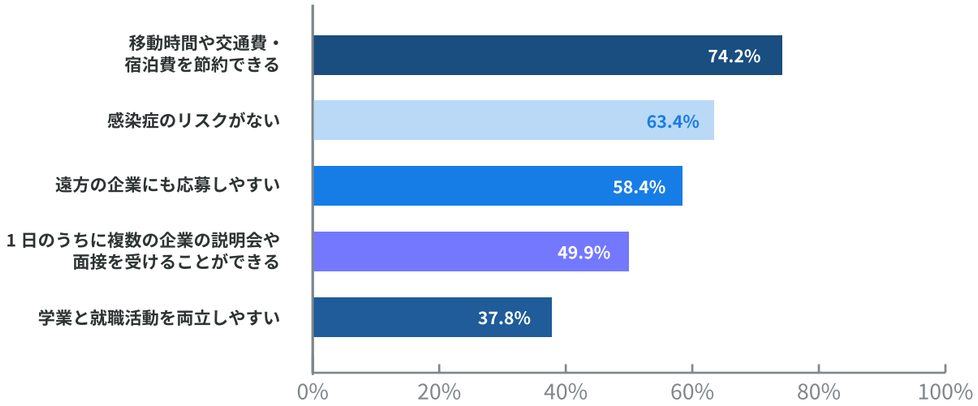
Copyright © ZENKIGEN Inc.

Appendix

学生側のオンライン面接への所感

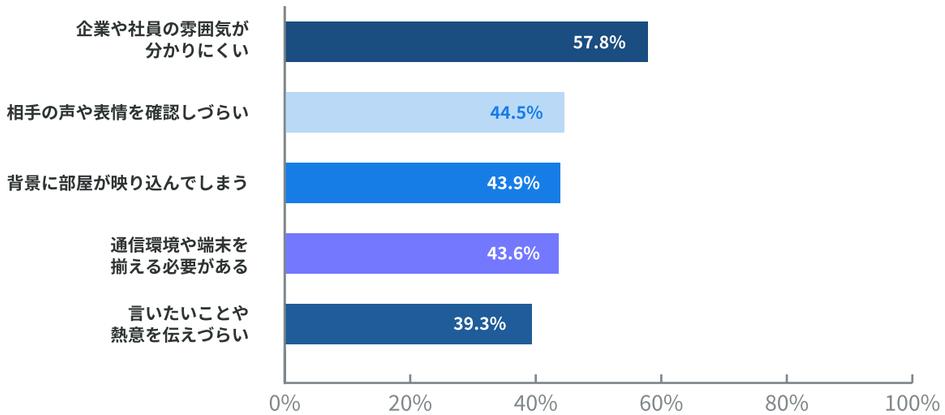
今年度の就活生へのアンケート調査から、学生側もオンライン面接は効率化を促したが、企業の見極めに大きな課題を感じているのがわかった。また、オンライン面接への参加の簡便さや接続/機材トラブルの予防を求めている傾向にある。

オンライン面接のメリット



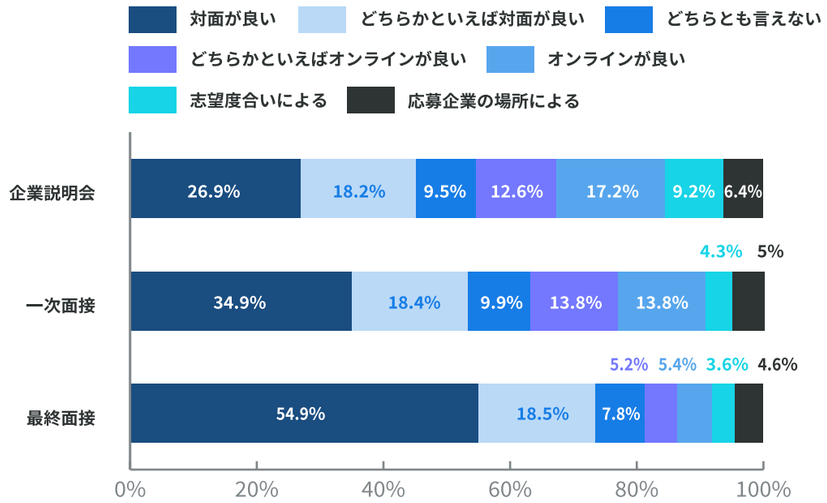
学生にとって一番のオンライン化のメリットが就職活動の時間の効率化や経済的負担の減少であると考えられる。オンライン化に伴い学生の企業選択の幅は確実に増えている。また、当然ながら学生側も感染リスクにはかなり注意をしている。

オンライン面接のデメリット



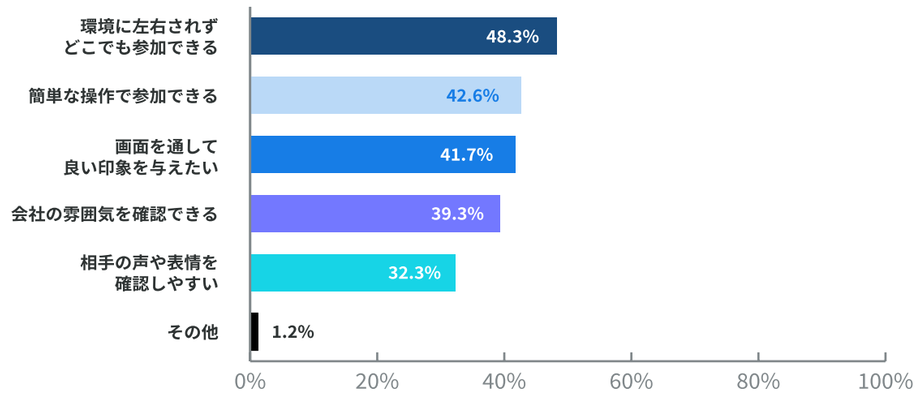
オンライン面接のデメリットとして挙げられたのは、企業や社員の雰囲気が分かりにくさである。企業側の課題と同様、得られる情報量が例年以上に少なく、今まで以上の手厚いフォローが求められている。

オンラインか対面どちらが望ましいか？



全体的な傾向としては、選考に進むにつれて、より対面を好む傾向であると考えられる。より詳細に学生側が会社や社員の雰囲気といった情報を持って重要度が増すほど見極めたい心理が働くことや、対面では起きない当日の通信環境や機材のトラブルを避ける傾向にある。

オンライン面接に期待することは？



「環境に左右されずどこでも参加できる」、「簡単な操作で参加できる」といった意見が多く、オンライン面接へのハードルの低さや当日の接続 / 機材トラブルの予防や対応が懸念事項であると考えられる。

Copyright © ZENKIGEN Inc.

02

ニーズ別
WEB面接ソリューションと
最新トレンド

Copyright © ZENKIGEN Inc.

ニーズ別WEB面接ソリューション導入例

Q

WEB面接だと候補者の人柄が見えづらい

A

面接の録画をしましょう！

オンラインを活用する最大の利点がデータの蓄積と共有の簡便さにあります。特にWEB面接は録画動画を残すことが可能であり、事前に確認することで、同じ質問をするのを防ぎ、対面以上に候補者の内面に迫った面接が可能です。ポイントとしては、応募者の回答のハイライト部分をしっかり示して共有することで効率的に面接が進行できます。

Q

書類選考の評価に限界を感じる

A

録画動画選考を導入しましょう

ESや履歴書といった従来の書類選考は学生側のノウハウの蓄積により、提出書類の質の向上と平準化が起こり見極めが難しくなりました。そこで録画動画による選考を導入して、書類だけでは判別できない熱意や雰囲気を可視化して判断する企業が増えています。録画動画の活用により、選考初期の面接自体を省略し、一気に採用工数を削減するケースもあります。

Q

面接官の評価のバラツキで、求める人材が落選している

A

面接の録画で多人数による評価を行いましょう

面接官の性格や嗜好にバラツキがあり、会社が求める人材が不採用となっている可能性があります。しかし、録画データを複数人で評価すれば、共通の基準かつ質の高い選考が可能になります。また、他人の評価を確認することは面接官自身のFBにもつながり、全体的な面接の質の向上も可能とします。

Q

学生の意向度を高めたい選考移行率を高めたい

A

社員との座談会や1on1など積極的に設定しましょう

オンライン化に伴い、物理/時間的な制約が一気に緩和されました。採用の効率化に伴い、学生と社員との交流座談会や1on1へ時間を割いて会社への理解度や熱意の醸成に努めている企業が例年以上に増えてきています。WEB面接が中心で候補者側も会社への印象が不明瞭になりがちなので、今まで以上に対話の機会は重要になりつつあります。

これらの機能を活用したオンライン採用とは？

Copyright © ZENKIGEN Inc.

オンライン採用の最新トレンド例

従来の大規模なイベントや企業説明会での母集団形成の実施が厳しくなり、ダイレクトリクルーティングなどの従来にないチャネルが注目を集めている。また、母集団の少ない中でリードタイムの短縮による早期アプローチの需要が高まり、全体の効率化を図れる採用管理システム(ATS)やWEB面接システムの導入が進んでいる。こうした動きの中で昨今注目を集めているのが、選考初期のスクリーニングを一気に効率化できる録画動画による選考である。

各フローと採用管理システムの
連携が効率化の鍵！

採用管理システム(ATS)

母集団形成

オンライン上での母集団形成がメイン!

WEB説明会　採用サイト

ダイレクトリクルーティング

従来のオフラインイベントや大規模の対面での会社説明会などから、オンラインでの説明会やダイレクトリクルーティングなど母集団形成のチャネルが増加傾向にある。

スクリーニング

録画動画を用いて一気にスクリーニング！

録画動画面接

エントリーシート　SPI

ESやSPIだけでは判別できなかった雰囲気や熱意を可視化できる録画動画選考を導入することで、面接前の選考で一気にスクリーニングを図る企業が増えている。

面 接

WEB面接システムでより深い選考を！

WEB面接

WEB面接システムを使用して候補者と効率的に面接を設定。面接の録画データや評価を候補者と紐づく形で残して、より深堀りした質問が可能。候補者にとっても好印象を与える。

最後は対面で面接！決め手はデータを活用！

最終：対面面接

オンラインでの選考を中心に進めてきたが、最後の見極めはやはり対面のケースが多い。ただし、最終面接においても面接の録画データを活用し、最後の見極める点やアトラクト方法を事前に決めると効果的。

内定フォロー

オンラインならではのこまめなフォロー！

WEB面談

WEB面接システムを選考後も有効活用を行う。人事部との1on1や、社員との座談会もこまめに行い内定者の意欲を高めていく。ここでも動画を録画することで、フォロー対象の優先度づけを行う。

Copyright © ZENKIGEN Inc.

03

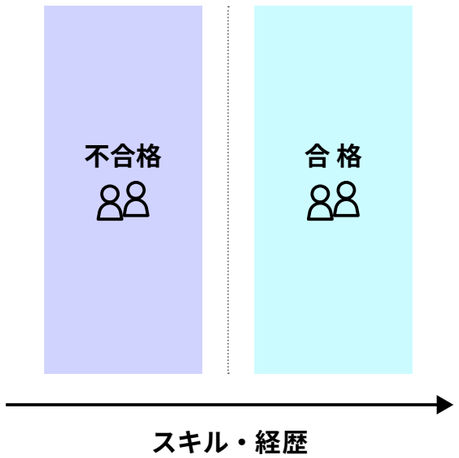
なぜ録画動画による選考が注目されるのか？

Copyright © ZENKIGEN Inc.

なぜ録画動画による選考が注目されるのか？

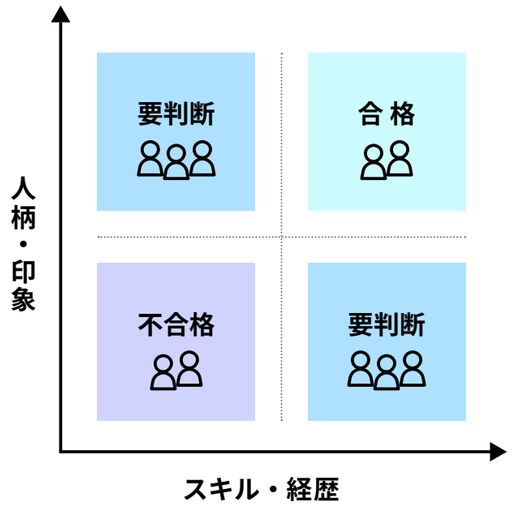
従来の初期選考では、主にESや適性検査でスクリーニングを行い、面接に参加する人物を選定するケースが主流です。上記の図の通りスキルや学歴など一定の基準で合否を判断しますが、初期のスクリーニングで選定できる人数には限界があります。また、企業への志望度や人柄の判別がつかないため、選定した人材が内定を承諾する確率やマッチする価値観を持っているかを担保しづらい課題もあります。

- **ES・適性検査のみで判断した場合**



**スキルや経歴での
1つの軸での
スクリーニングが可能**

- **ES・適性検査+動画で判断した場合**



**スキルや経歴に加えて
人柄や印象の2つの軸での
スクリーニングが可能**

企業への熱意や人柄を可視化できる録画動画をESや適性検査と組み合わせると、上記の図の通り、これまで合格にしていた人物が不合格になるケースや、不合格にしていた人物が合格になるケースが出てきます。自社へのマッチ度や人としての魅力も含めた、人材の総合力の判断を行うことで、自社にとって質の高い候補者を母集団から漏れなく選定することが可能となりムダな面接の削減につながります。

このように初期スクリーニングの精度を大幅に向上させることが可能なので、1次面接の代替として活用して採用工数を大幅に削減するケースも増えています。

Appendix 録画動画選考の活用のTips

動画選考で見るべき人材要件を決め、設問設計を行う

人物像やコミュニケーション能力はもちろん、それ以外にも動画から読み取れることはあります。就職・転職活動の選社軸や過去の行動の判断軸、論理的思考能力なども、設問次第で把握することが可能です。実は会わないと分からないと思っていた人材要件も、動画に置き換えることで、選考初期からより多くの情報での質の高いスクリーニングが可能になります。

動画設問は最大3問、録画時間は30秒〜90秒が理想

1分間のスピーチでは300~400字程度を話すと一般的には言われます。2分間や3分間の動画をいくつも撮影するのは、候補者の負担が大きくなるため、あまり推奨しません。1問あたり30秒〜90秒とし、設問の数は1つ〜3つにすることで、候補者の投稿へのハードルが下がります。

動画の閲覧者や利用範囲を明示し、候補者の不安を払拭する

投稿した動画について、誰が見るのか、どう使われるのか、どこを見られ評価されるのか、を不安に思い、投稿意欲が下がってしまうケースもあるようです。求人媒体内や設問内、その他案内ページなどで、それらについて明記いただくと、候補者の心理的な不安やハードルが軽減され、より投稿をして貰いやすくなります。

動画選考の導入理由を候補者に伝えて、動画投稿への納得感を獲得する

録画面接が、「採用側の業務効率のため」とネガティブに受け取られないよう、候補者に理由を明示している場合、前向きに投稿をしてもらっている傾向があります。自社なりの導入理由を、事前に明示できると、候補者に誤解を与え歩留まりが発生するというリスクを回避することが可能です。

（例）「遠方の方や時間制約がある方にもできるだけ多くの方にエントリー頂けるように」
「エントリーシートでは分からない人柄や人物像も見て、沢山の応募者との出会いを大切にしたいため」

Copyright © ZENKIGEN Inc.

04

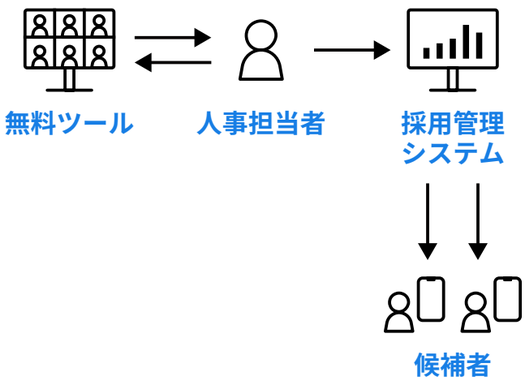
WEB面接の大幅効率化のポイントは？

Copyright © ZENKIGEN Inc.

WEB面接の大幅効率化のポイントは？

採用管理システムとWEB面接システムの連携で面接URLの発行/管理工数を全てカット！人手を介するオペレーションミスの防止にもつながります。

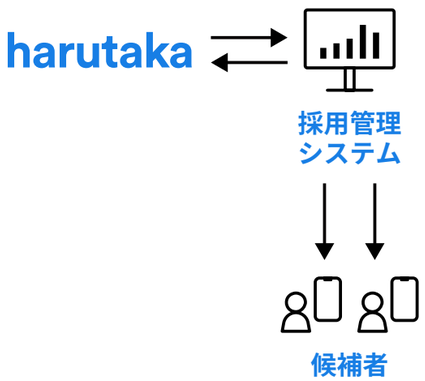
- **Zoom等無料ツールの場合**



WEB面接URLの発行と関係者への連絡が都度発生

「面接用URLの生成ー候補者への送付ー面接実施」のWEB面接実施のための一連の業務を、1つ1つ手動で行う必要があります。少人数だけのWEB面接の実施であれば、上記の運用も可能ですが、本選考実施時など多数の候補者と面接をする場合には、URLの送り間違いや漏れなどのミスが起こるケースが多々発生しています。

- **採用特化の場合（弊社サービス参考）**



採用管理システムとのAPI連携による工数軽減で、本来割きたい業務へ集中することが可能

採用管理システムとWEB面接システムをAPI連携することで、「面接用URLの生成ー候補者への送付ー面接実施ー面接録画動画の確認」の全ての業務が、採用管理システムから一元的に実行可能です。効率化・自動化されることで、オペレーションミスの防止に加えて、選考フォロー等の本来割きたい業務へ集中することが可能です。

Appendix

WEB面接活用のTips

アイスブレイクの時間を対面以上に設定する

WEB面接に臨む候補者は実は対面面接より緊張している場合が多いです。対面の場合は待ち時間や面接開始時に自然なコミュニケーションで緊張をほぐす手法がとられますが、WEB面接では意識せずにいきなり選考を始めてしまうケースがよくあります。そのため、最初の数分間はアイスブレイクの時間を設定することをルール化しましょう。そこで、内定者の指向に沿った話題集の準備や、録画動画選考で提出された動画の内容に触れるなど、内定者の志望度向上につなげることも可能です。

面接の録画を徹底する・事前に過去の録画データを確認する

採用のオンライン化の一番のメリットはデータの蓄積と共有の簡便さにあります。このメリットを最大限に活用するために、面接の録画は徹底して行いましょう。共有する際には、何分からハイライト部分かしっかりと明記すると大変便利です。また、事前に過去の面接の録画データでハイライト部分だけでも目を通しておくと、より深堀りした質問に時間を割くことが可能です。過去の面接を踏まえた質問は候補者からもかなり好意的に捉えられる傾向があります。

オーバーなリアクションを心がける

対面と比べてPCの画面上の限られた視覚情報では、応募者へリアクションが伝わりづらく、自身の話をしっかり聞いてもらえているか不安感を与えてしまいます。うなずきや相槌などいつもよりオーバーなリアクションを心がけることで、より円滑なコミュニケーションが可能です。

トラブル時の対応方法を決めておく

当日の面接時の接続環境や機材のトラブルは候補者にとっても企業にとっても最も避けるべきことです。もし起きてしまった場合でも、面接官が迷わず対処できるようなトラブルシューティング用のマニュアルは必ず用意しましょう。

グループ面接はできるだけ控えましょう

オンラインの面接では、使用上タイムラグなどがどうしても発生してしまい、多人数でのコミュニケーションには向いてないです。効率的なスクリーニングが録画動画による選考など他の代替手段を用意しましょう。また、コミュニケーション能力に関しては、個人面接の際に判断できる全体の採用の構造化を図りましょう。

Copyright © ZENKIGEN Inc.

05

WEB面接導入検討時に起きる4つの課題

Copyright © ZENKIGEN Inc.

WEB面接導入検討時に起きる4つの課題

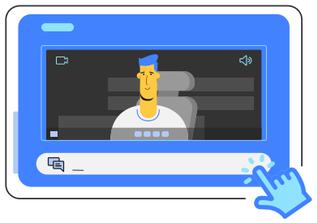
Q

**現場面接官への
ツール導入が難しそう**

A

**シンプルなUIの
ツールを使いましょう**

採用活動には人事部のみならず、学生や面接官など普段WEB面接に触れない人たちが多く関わります。マニュアルの整備なども一つの解決策ですが、やはり直感的に理解できるUIのWEB面接システムの導入が最も効果的な解決方法となります。



Q

**接続トラブルの
対応方法は？**

A

**まずは起こさないことが
重要！リカバリープラン
も準備しましょう！**

WEB面接の接続トラブル対策は、企業と候補者が共に満足のいく選考を進めていくために必須です。重要になるのは事前の接続チェックとリカバリープランの準備となります。こちらは「06 接続トラブルの対応方法は？」で詳しく解説いたします。

Q

**セキュリティ対策は
どうすれば？**

A

**基本的にどんなツールで
もセキュリティは保証さ
れます。ただし…**

グループウェアやWEB面接システムは基本的なセキュリティ保証はしています。ただし、同一の会議URLに応募者が同時に入室してしまうといったヒューマンエラーや録画動画の保存先のセキュリティ対策も必要です。採用活動全体に対して、セキュリティを担保できるシステムの選定が重要です。

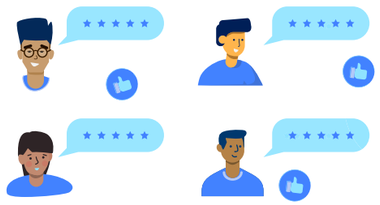
Q

**WEB面接での
見極め方法とは？**

A

**事前にしっかりと
軸を作りましょう！**

採用のオンライン化に伴い、候補者の見極め方が難しくなったと感じている企業が増えてきました。しかし、こちらの問題は実は「選考の軸が抽象的など」オンライン化以前から課題が表面化したケースが多いです。こちらについては18P～の「07 WEB面接での見極め方法とは？」で詳しく説明いたします。



Copyright © ZENKIGEN Inc.

06

接続トラブルの対応方法は？

Copyright © ZENKIGEN Inc.

接続トラブルの対応方法は？

「音声が聞こえない、プツプツ途切れる」「映像のタイムラグやカクカクする」といった、WEB面接が避けては通れない接続トラブルの原因と解決方法をご紹介いたします！

● 接続トラブルが起こるタイミングと主な原因

① WEB面接システムが対応していない
非推奨のブラウザやOSバージョンの利用
② 使用機材の不調
（特にBluetoothイヤホンに注意）
③ 接続環境の通信速度が低い

→

**事前に環境チェックと
フォローを入れられれば、
ほとんどが解決可能！**

● 接続トラブル予防のタスク一覧

	事前	前日	当日
人事	ネットワーク整備	ネットワーク最終確認	実施状況のモニタリング
人事	リカバリープランの設計		
人事	事前接続チェックの依頼		
面接官	事前接続チェックを実施		⚠ If トラブル時 他WEB面接ツール案内
候補者	事前接続チェックを実施		他WEB面接ツール入室

● 接続トラブルの予防方法

予防方法① 自社のWEB面接システムの推奨環境チェック

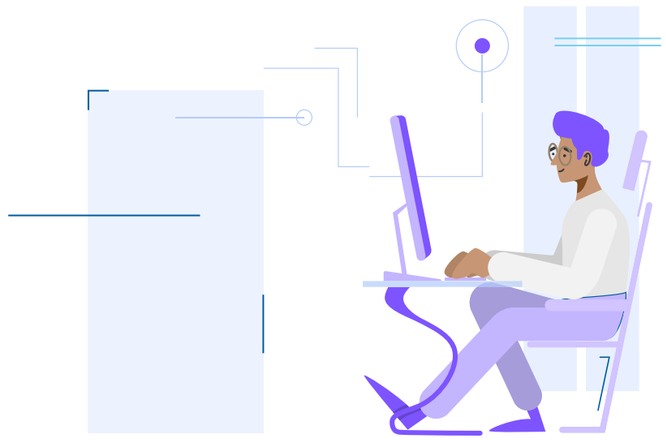
自社で使用しているWEB面接システムの推奨環境(OS/ブラウザ/通信速度など)をあらかじめ細かな点も含めて確認しましょう。

予防方法② 面接官と候補者に事前接続チェックの依頼

①でチェックした項目を、実際に面接する面接官と候補者に事前に周知/環境のチェックをしてもらいましょう。環境の準備ができない方には、他デバイスの準備を促したり、他WEB面接システムや電話面接を提案するなど事前にフォローをしましょう。

予防方法③ リカバリープランの設計

事前接続チェック漏れや当日の環境変化などで当日の接続トラブルが起きてしまった場合のバックアッププランを用意しましょう。面接官向けのトラブルシューティングマニュアルの準備や、他WEB面接システムの入室URLの送付準備、その場での日程調整の実行などトラブルを直ちに解決するリカバリープランの設計をすれば、候補者の面接体験が著しく損なわれるのを防げます。

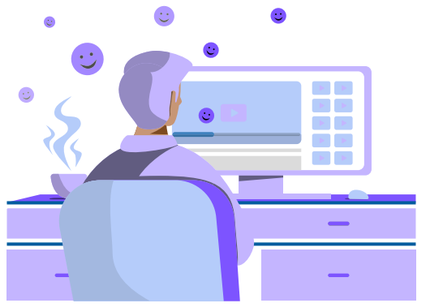


Copyright © ZENKIGEN Inc.

Appendix WEB面接サービスharutakaのモニタリング機能

WEB面接サービス「harutaka」を使用すれば、前述の事前の環境チェックやWEB面接のモニタリングを全てシステム内で実施可能です!

● 事前環境チェッカー（一括メール送信可能！）



1 ブラウザ

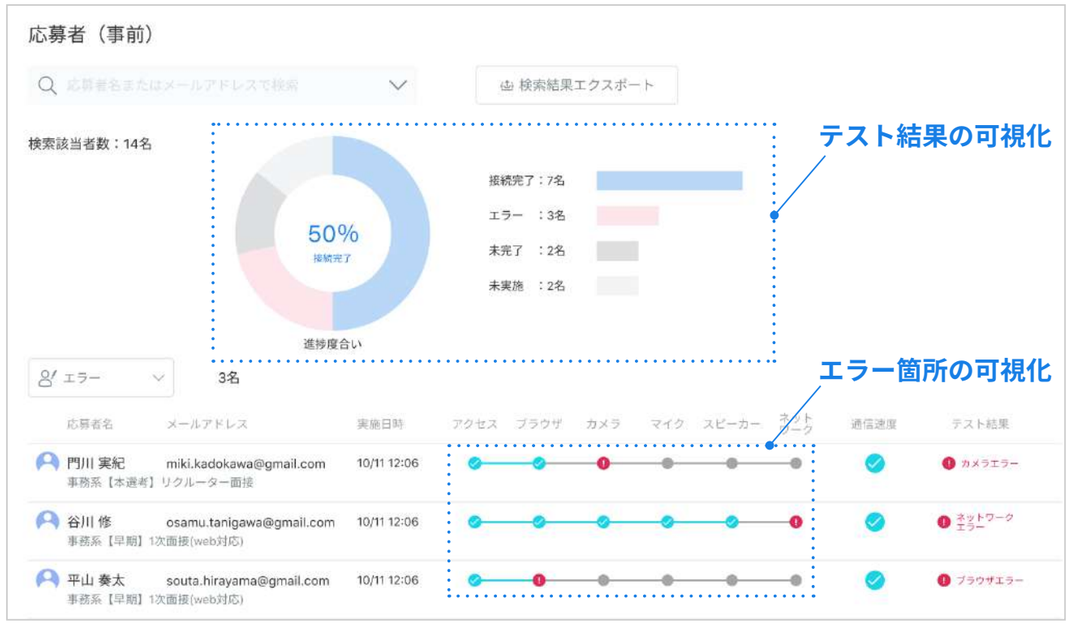
2 カメラ

3 マイク

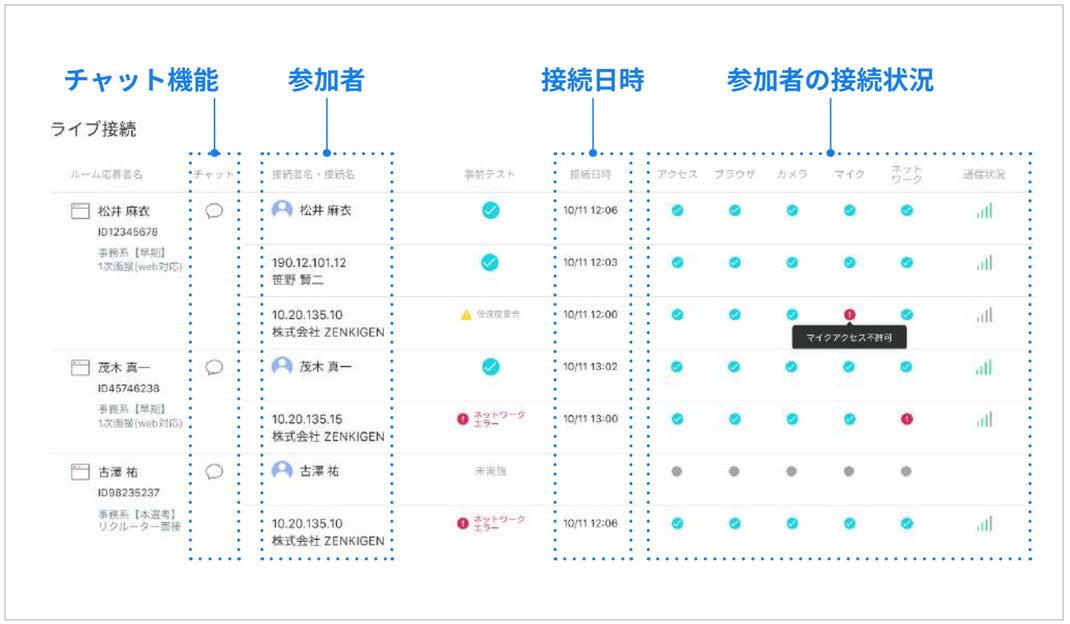
4 スピーカー

5 通信速度

● 事前環境チェックモニタリング機能



● 面接モニタリング機能



Copyright © ZENKIGEN Inc.

07

WEB面接での見極め方法とは？

Copyright © ZENKIGEN Inc.

WEB面接での見極め方法とは？

見極めの問題が起きる背景と解決策

- **オンラインになって、どこを見ればいいのか分からないという声が上がる。**
- **人によって採用基準が違うということが、より顕著になってきた。**
- **オンラインになり、求職者のパフォーマンスが発揮できていない気がする。**
- **来年から何を改善していくべきか、改善点が分からなくなってしまっている。**

このような意見が各企業の面接官から出てくるケースが増えていますが、実はWEB面接実施前から抱えていた「要件定義が抽象的」なことが原因であることが多いです。

判断基準の曖昧さや採用全体の見極めポイントの構造化できていない場合、最終的な基準が面接官の主観に委ねられ、面接の雰囲気での判断が多くなります。
この問題が、オンライン化により更に雰囲気が読み取りづらくなったことで表層化しており、入社後のミスマッチの要因にもなります。

実際に各選考において「何を見たいのか？」という軸で判断基準が明確化されている企業の場合、面接官が評価に悩むケースは少なく、他の面接官を交え確認できる環境も確立されています。

WEB面接の中で見極められるものと見極められないものをあらかじめ定義をしておくこと、各選考で何を見極めるのか事前に決めておけば、見極めの精度はグンと上がります。

録画面接選考での見極め軸具体化イメージ

採用で見極めるべきもの		大切なこと
「応募者が自社のカルチャーにフィットするか」 「ポテンシャルや能力など、求めている要素を持っているか？」	→	要件定義をきちんとして、どのように見極めるかを構造化する。

見極められる	学生時代に頑張ったことを専門外の人に端的にわかりやすく伝える力	理系の学生に対し、学生時代に頑張ったことを質問。どんなことを研究していたかが分かりやすかったかを、文系社員に5段階で評価してもらう。
見極められる	創意工夫能力	自分を表す「もの」を教えてくださいという設問を設置。物の利用を促し、他の人とは違う表現をできる人に加点をする。
見極められる	プレゼンテーション能力	プレゼンテーションの時間を設置。 目線、声の抑揚、資料の構造化、声量、ロジカルさをそれぞれ5段階で評価。
見極められない	コミュニケーション能力	**面接で判断**

事前の求める人材のペルソナ設定や、選考の軸の決定が今まで以上に重要に！
全体の選考の構造を踏まえて、各面接の目的を設定しましょう！

Copyright © ZENKIGEN Inc.

Appendix WEB面接で見極められるもの・見極められないもの

選考ポイント		手法比較							
Level1	Level2	適性検査	GW	ES	職務経歴書	録画	電話	Web	対面
ノンバーバル	見た目・身だしなみ・表情	×	◎	×	×	○	×	○	◎
	声の質・大きさ・テンポ	×	◎	×	×	○	○	○	◎
	口臭・体臭	×	△	×	×	×	×	×	○
	反応・雰囲気	×	◎	×	×	×	△	○	◎
バーバル	論理的構築力	◎	○	○	△	△	○	○	○
	伝達力	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
	理解力	◎	○	×	×	×	○	○	○
スキル	創造力	×	△	○	×	△	×	×	×
	職務力スキル	×	×	×	○	×	×	◎	◎
	言語スキル	×	◎	×	×	○	◎	◎	◎
内面性	原動力	○	×	×	×	×	○	○	○
	エネルギー総量	○	×	×	×	×	○	○	○
	行動原理	○	×	×	×	×	○	○	○
	志向性	○	×	×	△	×	○	○	○
	志望度	×	×	△	×	△	○	○	○
外面性	集団におけるタイプ	○	△	×	×	×	×	×	×
	行動量	○	△	×	×	×	×	×	×
	行動スピード	○	△	×	×	×	×	×	×
	やり切る力	○	△	×	×	×	×	×	×
選考コスト	企業：時間	0min	30min	5min	5min	5min	10min	30min	45min
	候補者：時間	60min	150min	120min	ー	30min	10min	30min	150min

Copyright © ZENKIGEN Inc.

08

harutakaとは

Copyright © ZENKIGEN Inc.

harutaka

採用のオンライン化を実現する
ALL-In-OneのWEB面接サービスです

エントリー動画

応募者も、採用者も
いつでも・どこでも・短時間で選考が可能

01 開始動画

02 テキスト質問

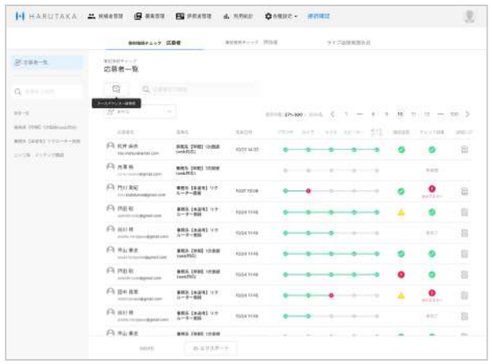
03 動画投稿

ライブ面接

採用面接特化
離れた場所でもリアルタイムで
面接が可能

面接モニタリング機能

事前の環境チェックや
面接のモニタリングを
全てシステム内で実施可能



Copyright © ZENKIGEN Inc.

参考 ライブ通信サービス比較一覧

	無料ツール（Zoom等）	他WEB面接ツール	harutaka
採用管理	・採用管理ツールとの**二元管理が煩雑** ・候補者毎に面接URL発行→別表（Excel）などへ要コピペ（**業務負荷増＋手入力ミス**の一因に）	採用管理システムと未連携の場合、**無料ツールと同様の工数が発生**	・**10以上の採用管理システムと連携済み** ・単体でも候補者管理、面接ルーム（URL）自動生成、メール送付など採用に即した機能あり
エントリー動画機能	**機能無し**	一部を除き、**機能無し**	・**面接の代替として活用→時間的価値を最大化** ・**書類選考の代替→スクリーニング精度を向上**
ライブ面接録画機能	一部、録画機能はあり。ただし、**録画された動画は自動的に候補者に紐づかない**為、管理が煩雑	一部を除き、**機能無し**	・**選考基準擦り合わせ、面接内容の引き継ぎ、面接官教育**にライブ録画を活用 ・**自動候補者紐づき**で、常時動画を参照可能
ライブ面接不具合時リカバリ	・同じURLへの**再アクセスが可能** ・**通信速度調節は不可**	**時間単位で管理**されるURLのため、不具合で接触が切れた時に、**同じURLへの再アクセスが不可**（一部のみ確認）	・接続が切れた場合でも**同じURLへの再接続が可能**のため、**リカバリに強い** ・**通信速度調節が可能** （通信が弱い時でも音声品質を極力担保）
セキュリティ	セキュリティ上の**脆弱性**の指摘有り	一部を除き、規格に登録無し（要件を満たしているか不詳）	**ISMS（情報セキュリティ規格）**を保有、**セキュリティの厳しい大手企業**での**面接導入実績多数**

※各社ごとに最新のサービス機能は異なる可能性があります。

Copyright © ZENKIGEN Inc.

株式会社 ZENKIGEN
お問い合わせ先
03-3286-8550
https://harutaka.jp/